

GHCHてつなぎ荘事業 平成26年度事業計画(案)

1. 利用状況
- * 入居定員及び入居人数及び動向
 - てつなぎ荘 定員7名 満室
H25、8入居者1名(死去)・H25、10新規入居
 - てつなぎ抱夢 定員5名 満室
 - 共生型ほんわかホーム 定員6名 満室(高齢者1名含)
 - * 短期入所事業
 - てつなぎ荘 定員1名 随時利用
 - * 一時預かり事業
 - ほんわかホーム及び荘及びサポートセンターにて利用
1時間 200円 食事@1食300円
2. サービス体制
- ほんわかホーム 担当職員 5名
 - てつなぎ荘 担当職員 1名 応援職員 5名
 - 食事(世話人) 3名
 - 担当及び応援職員にて、早出・遅出・日勤・宿直・夜勤を交代で行う
 - 食事提供状況

てつなぎ荘	第1第3水曜以外食事担当にて 第1第3水曜は職員対応
てつなぎ抱夢	毎日、荘より配達
ほんわかホーム	火木全部第2第4水曜は担当 他はすべて職員対応
3. 重点目標
- ① サービスの質の向上
 - 目的 職員間の情報共有を強化していくため、毎週金曜日夜にミーティングを設ける(第1・3・4、業務連絡相談:第2、研修(勉強会など))
虐待防止の徹底、法令順守に努め向上をはかる。
 - ② サービスの質の向上②余暇支援
 - 目的 土日祝祭日の外出(主に買い物が多い)を多様化しドライブや地域行事へ参加する。入居者と一緒に企画し取り組むことで充実を図る。
 - ③ 収益向上をはかる(経費削減を含む)
 - 目的 生活消費物品の調達方法の見直し、食事体制の改良による経費削減
・食材・生活消耗品の一元管理及び購入、配食サービスの活用など。
・新規グループホームの開設
潜在的ニーズがあるのに受け皿がない、利用者増はそのまま収益向上になる
(他地域からの利用希望に対応するべく、町内民宿やペンションの活用、
4月の法改正により創設される「サテライト型」の活用など)